2023年度 報告書

東邦大学 教育・研究支援センター

contents

《巻頭特集》 01
学内外補助金事業支援 03
研究支援 07
特集！研究オンライン講座 09
ノーベル賞解説セミナー 10
社会連携推進活動 11
2024年度活動計画 19

2023年度を振り返ると、徐々にではありますが、世の中がポストコロナに対応しだしたと感じる1年でありました。大学の教育・研究もしかりです。学会活動なども、だいぶ従来の活気を取り戻してきた感があります。さらに、生成AIに代表される新しいテクノロジーが台頭してきた1年でもありました。大学におけるリカレント教育の重要性もますます高まってきているようです。時代が変化すれば、当然のごとく大学も変わっていかなくてはいけません。

教育・研究支援センターでは、こうした時代の流れに乗り遅れないように、試行錯誤しながらですが種々の取り組みを行っております。1年間の活動を、その自己点検・評価とともに報告書にまとめました。お目通しの上、センターの活動内容向上に向け、ぜひ前向きのご意見を賜れば幸いです。

教育・研究支援センター長　西脇 祐司

巻頭特集

1 生成系AIの利用に関する方針

本学は、令和５年６月 23 日に「東邦大学における生成系 AI の利用に関する方針」を公表しました。生成系AIに関する利便性が高いだけではなく、さまざまなリスクも考えられます。本学の教職員や学生が教育・学修・研究等の諸活動をする上で、生成系AIのメリット・デメリットを理解し、個々人の責任のもと取り組んでいけるように、理解促進のためのセミナーを開催しました。

東邦大学全学 FD「良きパートナー」としての生成系 AI の利活用
開 催 日：令和５年10月４日（水）オンライン開催
講　　師：理学部 情報科学科　講師 豊田 哲也
概　　要：ChatGPTの無料のバージョンを実際に使用しながら、
生成系AI がどのような結果を出力するのかを検証し、
課題や教材、試験問題の作成を体験していただきました。

東邦大学における生成系 AI の利用に関する方針
https://www.toho-u.ac.jp/upnews/2023/20230623_1_AI.html

2 カーボンニュートラルの取組

世界的なSDGs推進活動の中、近年、社会におけるカーボン・ニュートラルの活動が活発になり、企業のみならず、大学、研究機関にも社会の一員としての取り組みを行うことが求められるようになってきています。

本学でも、令和３年度から取り組みに着手し、文部科学省・経済産業省・環境省が先導しスタートした「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に開設当初より参加を表明しています。これまでにさまざまなワーキンググループの活動に参加し、学内でも定期的に理解を深めるセミナーを開催してきました。今年度は「東邦大学は地球温暖化とどう向き合うか」をテーマに第３回のセミナーを開催しました。

第３回セミナー「東邦大学は地球温暖化とどう向き合うか」
開 催 日：令和６年２月26日（月）オンライン開催
講　　師：国立環境研究所地球システム領域上級主席研究員
東京大学未来ビジョン研究センター　教授 江守 正多 氏
医学部 微生物・感染症学講座　教授 舘田 一博

※ 動画配信は、教育・研究支援センターホームページをご確認ください

3 リカレント教育

少子高齢化、高度情報化、技術化、国際化など社会の急激な変化によって生ずる諸問題に対して、主体的に考え行動していくため、社会は生涯を通じて高度な教養と技術を学習する機会を求めています。このような要請に応えるべく、本学は、自然科学系総合大学としての教育・研究活動の成果を、地域社会、市民、専門職業人に提供することにより、生涯にわたって人が学び続け、時代への主体的対応を行っていくことを支援します。本学の取り組みを広く公表・周知し、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する、多様なリカレント教育等の社会人学び直しに関する取り組みを推進していきます。（詳細はｐ13-14）

4 安全保障輸出管理の理解促進

新型コロナ感染症が落ち着き、海外との交流が急速に回復しつつある中、経済産業省や文部科学省から大学や研究機関に向けて安全保障輸出管理上の注意喚起が行われています。そこで、本学の安全保障輸出管理委員会でも、海外との交流が回復しつつあるこの時期に、正しい理解を深め安全な国際交流ができることを目的に、安全保障輸出管理セミナーを開催しました。当日は経済産業省安全保障輸出管理アドバイザーをお招きし、基本情報の他に特に注意したい留学生受け入れの注意点や研究試料の輸出時に必要なことをご教示いただきました。なお、本セミナーは本学教職員の動画視聴が可能です。詳しくは、安全保障輸出管理ホームページをご確認ください。

東邦大学教職員向けSD
「国際共同研究を推進するために必要な基本的な貿易管理」
開 催 日：令和５年９月15日（金）ハイブリッド開催
講　　師：経済産業省安全保障輸出管理アドバイザー
横浜国立大学研究推進機構輸出管理マネージャー
山之内 雄二 氏

5 ABSへの対応と理解促進のための活動

近年、国外での研究活動に関しても、国際的なルールに則り実施することが求められるようになりました。その一つに、2010年に開催された生物多様性条約第10回締約国会合（COP10）で採択された名古屋議定書があります。この議定書は、遺伝資源の取得と利益配分（Access and Benefit Sharing：ABS）に関する国際的指針で、日本では2017年に発効しました。この指針は、国外から生物のサンプルの採取と国内への持ち込み、伝統文化や生活習慣等の情報を用いた研究に関する研究開始前に事前手続きを定めています。ただし、この手続きは相手国や目的などにより異なるため、その対応は簡単ではありません。また、最近ではゲノム配列などのディジタルデータもABSの対象になるケースが報告されています。

ABS対応委員会は、本学の研究者の皆様がABSに関する国際的指針に基づいた研究を推進できるように、必要なサポートをする目的で設立されました。ABSに関する疑問やABS対応が必要かもしれない海外の研究機関との研究、輸入業者や通信販売などで海外から研究に使用する材料を購入される場合は、事前に委員会に相談することが可能です。また、理解促進のためのセミナーも令和５年３月と10月に開催されました。

令和４年度セミナー「ABS 対応が必要な研究とは」
開 催 日：令和５年３月22日（水）オンライン開催
講　　師：国立遺伝学研究所ABS学術対策チーム責任者　鈴木 睦昭 氏

令和５年度セミナー「研究者が気を付けるべき、されど忘れがちな伝統的知識利用研究の問題」
開 催 日：令和５年 10 月 11 日（水）オンライン開催
講　　師：同志社大学生命医科学研究科客員教授／他　駒谷 剛志 氏

学内外補助金事業支援

東邦大学重点領域研究補助金
Toho University Grant for Research Initiative Program (TUGRIP)

東邦大学重点領域研究補助金は、本学に在職する研究者が学部や研究科を超えて原則として共同で行う学術研究活動を支援することにより、大学のブランディングに資する研究を推進することを目的として、令和２年に創設されました。第１回の採択は、**医学部中野裕康教授を研究代表者としたグループ**で、**「生体組織の４次元リモデリング機構破綻による疾患発症・重症化メカニズムの解明と医療技術シーズの創出」**を研究テーマに３年間活動されました。その後、令和４年度には**理学部村本哲哉准教授を代表としたグループ**、令和５年度には**医学部船戸弘正教授を代表としたグループ**が採択され、令和６年度には新たに**理学部岸本利彦教授を代表としたグループ**が加わりました。申請にむけた**グループ編成**は、**学内横断的な研究者の交流の機会**となり、採択チームの各種セミナーでは**横断的研究の面白さ**を教職員や学生・大学院生に伝えてくれます。
令和６年度募集の際には、これまでの採択チームの研究代表者が、**TUGRIP申請にむけたメッセージを伝える動画**を作成しホームページに掲載しました。今後の申請だけでなく、学内横断的研究の楽しさも伝わる内容ですので、ぜひご覧ください。

メッセージ動画配信中

TUGRIP 申請公募について

申請の際の注意点を解説しています。

ご挨拶

TUGRIPに期待することをお話いただきました。

TUGRIP 申請にむけたメッセージ

令和2年度採択

研究代表者
医学部　中野 裕康 教授

令和4年度採択

研究代表者
理学部　村本 哲哉 准教授

令和5年度採択

研究代表者
医学部　船戸 弘正 教授

TUGRIP への期待
高松 研 学長

TUGRIP は、東邦大学の研究シーズの発掘、進みつつある研究を大きく発展させ、大学の研究力を示していくことを目的に、令和２年度に創設されました。
研究はすそ野を広く保つことが必要です。成果が明確に見えない研究の中に発展性があり、自由で多様な研究の中に萌芽があります。昨年８月、Plos One に The effectiveness of Japanese public funding to generate emerging topics in life science and medicine と題する、1991 年以降の生命科学・医学分野に配分された科研費について費用対効果を調べた論文が発表されました。高額研究費を得るほど多くの成果を創出できるが、5,000 万／年以上では横ばいとなる。投資総額に対しての視点で捉えると、500 万／年以下の研究費を多くの研究者に配分するほうが効果的であるという結果でした。
多様性は必要ですが、ある程度の研究集団が、ある程度同じ方向性をもつことが必要です。TUGRIP では、研究対象や研究方法で、さまざまなプラットフォームが形成され、東邦大学の研究ブランディングへと展開していくことを願っています。

●【TUGRIP】令和４年度採択事業２年目成果報告

研究課題名	新規創薬プラットフォーム構築　－成人型組織細胞の代替細胞の開発－
研究代表者	村本 哲哉 准教授（理学部 生物学科）
研究分担者	内藤 篤彦 教授（医学部 生理学講座細胞生理学分野）／ 安齊 洋次郎 教授（薬学部 微生物学教室） 飯坂 洋平 講師（薬学部 微生物学教室）／ 山口 新平 講師（理学部 生物学科）

研究代表者
理学部
村本 哲哉 准教授

実績報告

本研究は、創薬開発の大規模スクリーニングや薬に対する個人差評価に利用できる代替肝細胞の開発に焦点を当てており、具体的には個人差をもたらす薬物代謝酵素CYP2D6の遺伝子多型を考慮した代替細胞の樹立や、最終分化の機能維持を含めた安定供給法の構築を行うことで、新たな創薬プラットフォームを目指している。今年度は、ヒト肝がん由来株 HepaRG 細胞を使用し、シトクロム P450（CYP）二重蛍光レポーターを指標とした解析を進め、成熟・若返り誘導系の樹立に成功した。また、この蛍光レポーターをより詳細かつ客観的に評価するフローサイトメーター解析系を確立した他、各分化段階での転写プロファイルも明らかにした。次に、CYP 発現個人差を反映した CYP2D6 高発現 HepaRG 細胞の作製に成功し、この細胞で CYP2D6 の薬物代謝活性が顕著に増加していることを確認した。今後は、肝細胞の成熟・若返り誘導系を組み合わせることで、薬物代謝酵素の遺伝子多型を反映させた評価系の整備が期待される。最後に、成人型組織細胞の作製のために多能性幹細胞を利用したアプローチも実施し、特に多分化能を担保する DNA メチル化酵素の新たな活性や、より生体の幹細胞の DNA メチル化状態に近い条件を維持できる培養条件の同定に成功した。

● 学内研究推進活動

TUGRIP セミナー

2023年 12月15日　**第３回テーマ**：発生工学技術で世代を超えるエピゲノムの秘密に迫る
山口 新平 講師（理学部 生物学科）

2024年 3月18日　**第４回テーマ**：クロマチンリモデリング因子による細胞の運命決定機構の解明
内藤 篤彦 教授（医学部 生理学講座細胞生理学分野）

●【TUGRIP】令和５年度採択事業１年目成果報告

研究課題名	脳神経系システムと行動可塑性の機構解明　－ブレインテック基盤の確立を目指して－
研究代表者	船戸 弘正 教授（医学部 解剖学講座微細形態学分野）
研究分担者	狩野 修 教授（医学部 内科学講座脳神経内科） 上田（石原）奈津実 准教授（理学部 生物分子科学科）／ 我妻 伸彦 講師（理学部 情報科学科）

研究代表者
医学部
船戸 弘正 教授

実績報告

研究実施計画に沿って、船戸らは、ノンレム睡眠時の脳波主成分である徐波を直接制御する技術的基盤を確立するため、大脳皮質や視床、前障を標的にし細胞内シグナル系の操作などを行っている。睡眠覚醒制御に必須の役割をもつ神経ペプチド、オレキシンの受容体の詳細な発現情報を、本学で開発した新しいmRNA可視化法である isHCR 法を用いて可視化し論文として公表した（Tsuneoka, Funato, eNeuro 2024）。狩野らは筋萎縮性側索硬化症患者に対して、下肢タイプロボットスーツHALを用いた歩行障害に対する運動機能維持効果の最適化のための検討を始めた。上田らは、細胞骨格セプチンに着目し、スパインの構造変化による記憶生成の分子機構の解明の進展が見られた。我妻らは、神経ネットワークの生成する同期活動の現実的な再現に成功している。上田の得た実験データを我妻がモデル化するなどの共同研究も成果を挙げている。
計画通りに複数のTUGRIPセミナーを開催した他、東邦医学会との共催として林悠東大教授の特別セミナーも実施した。複数の論文を発表した他、公的資金を含む学外研究助成金の獲得実績も順調に推移している。

● 学内研究推進活動

TUGRIP テクニカルセミナー

2023年 7月13日　**第１回テーマ**：ニューロンモデルと神経回路ネットワークのシミュレーション
我妻 伸彦 講師（理学部 情報科学科）

TUGRIP セミナー

2023年 11月14日　**第１回テーマ**：筋萎縮性側索硬化症（ALS）克服へのロードマップ
狩野 修 教授（医学部 内科学講座脳神経内科）

2024年 2月19日　**第２回テーマ**：レム睡眠のメカニズムの意義
（東邦医学会共催） 林 悠 教授（東京大学 大学院 理学系研究科 生物科学専攻）

学内外補助金事業支援

東邦大学重点領域研究補助金
Toho University Grant for Research Initiative Program (TUGRIP)

【TUGRIP】令和６年度採択事業 概要

研究課題名 包括的ゲノム科学推進プラットフォーム（バイオインフォマティクス共同研究拠点）の構築

研究代表者 岸本 利彦 教授（理学部 生物分子科学科）

研究分担者 鹿島 誠 講師（理学部 生物分子科学科）／山口 新平 講師（理学部 生物学科）
土屋 勇一 准教授（薬学部 生化学教室）／須磨﨑 真 助教（医学部大森病院 乳腺・内分泌外科）

研究代表者
理学部
岸本 利彦 教授

事業概要 本事業は、「包括的ゲノム科学推進プラットフォーム（バイオインフォマティクス共同研究拠点）」を構築することで、現代生命科学に重要な次世代シークエンサー（NGS）解析と Bioinformatics 解析を、Wet研究者に安価で簡便に提供することを目指す。鹿島が開発・運用している安価なNGS解析技術の提供に留まらず、Wet研究者にはハードルの高いBioinformatics解析をコンサルティングすることで、研究コアメンバーを中心とした共同研究を推進する体制を整備する。さらに、本事業実施中に学内向けに実践的なワークショップを開催しつつ、学内外の研究者からの共同研究を積極的に受け付けることで、プラットフォームを構築し、将来的には、学内外の共同研究による成果発表、外部資金獲得などによるブランディング向上を目指す。

学内外補助金事業支援に関する自己点検・評価

評価

今年度の学内補助金事業は、下記のような実績をあげ学内の大型研究補助金運営に十分貢献できた。また、学外補助金についてはプレアワード・ポストアワードの支援が十分でき、一定の貢献が得られた。研究助成金情報は、提供される情報の統一ができ、届けたい人に届く支援が可能になり、個人研究者の研究支援に貢献できた。

実績

学内補助金

- TUGRIPは、令和６年度の公募・申請受付を行い、応募があった２件の申請について厳正な審査を行い、採択グループが決定した。なお、URAのコンサルテーションデスクを活用し、事前相談で申請のブラッシュアップを行うグループもあった。
- 令和６年度公募の際には、過年度採択された３名の研究代表者から申請希望者に向けたメッセージ動画をホームページに掲載した。また、申請の際の注意点についてもリニューアルして掲載した。（詳細はp３に掲載）
- 令和４年度、５年度採択グループの運営支援では、４件のセミナーと１件のテクニカルセミナーの開催支援を行った。動画配信可能な３件は、ホームページに掲載し配信をした。
- URAが、過年度採択グループの学外大型補助金の申請書のブラッシュアップ支援を行った。

学外補助金

- プレアワード支援は、理学部の令和５年度女子中高生の理系選択支援プログラム申請支援を行い採択された。また、医学部の令和５年度高度医療人材養成事業の申請書作成支援を行った。
- ポストアワード支援は、感染症医療人材養成事業の推進室運営支援を行った。会計検査院の検査時には、必要書類の準備ならびに当日の審査対応を行った。女子中高生の理系進路選択支援プログラムでは、事務局の立ち上げやホームページ作成、学内外の周知、中間報告書類作成支援を行い、中間評価の結果も良好で次年度継続が可能となった。
- また、会計検査院の検査時には、医学部や看護学部で過年度採択された文部科学省事業の書類準備の支援を行った。

研究助成金情報の発信

- 学外のさまざまな研究助成金情報をホームページに掲載しているが、ユーザーが情報を得やすいように掲載内容の見直しを行い、入力フォーマットを統一した。
- 研究者のテーマに近い助成金募集がある場合は、個別に情報提供を行った。

今後の課題

- 学内の研究者間交流を促進し、大学のブランディングに資する研究グループの萌芽を促す。
- 研究助成金情報の発信については、定期的に見直しが必要である。

大型補助金に関する支援

文部科学省競争的補助金 2020 年度・2021 年度・2023 年度 支援事業一覧

2020年度 大学改革推進等補助金
感染症医療人材養成事業 102,875,000 円（単年度）
申請書作成支援 / 推進室運営支援

医学部を中心として、看護学部、健康科学部、地域連携教育支援センター、大森病院感染管理部が協力し、より実践的な感染症医療教育プログラムを構築しました。

2021年度 大学改革推進等補助金
ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業 総額 54,903,000 円（単年度）
申請書作成支援

４学部（医学部、薬学部、看護学部、健康科学部）が協力して、感染拡大時においても臨床実習に替えて学内で実習・演習が十分にできるための機材の充実、教育プログラムの構築を行いました。

2023年度 JST 次世代人材育成事業
女子中高生の理系進路選択支援プログラム 2,650,000 円／年
申請書作成支援 / 事業運営支援

理学部が、中高生や保護者に向けた理系進路選択支援プログラムを船橋市・習志野市と連携して構築し、全国で10校採択の一つとして選ばれました。

2023年度 大学教育再生戦略推進費
高度医療人材養成事業（医師養成課程充実のための教育環境整備） 総額 196,200,000 円（単年度）
申請書作成支援

大学病院における医学生の教育環境の充実等を図るため、本学の医療センターに最先端医療設備を購入し整備するための申請書の作成支援を行いました。

プレアワード支援

プレアワード支援とは、外部資金の情報収集や補助金の企画立案支援、申請資料作成支援など、大型補助金獲得を目指した支援です。また、学内外の補助金の情報収集から、本学で申請可能な案件の抽出と検討も行っています。

ポストアワード支援

ポストアワード支援とは、採択後の大型補助金が適切に運営できるように支援をすることを指します。補助金事業の期間は、管理運営を行う推進部門の設立、事業の進捗管理、学外への情報公開や報告書作成支援などを行います。また、補助金事業終了後の学内事業継続についても支援を行っています。

研究者向け研究助成金情報

教育・研究支援センターのホームページには、学内外の研究助成金情報を一括で確認できる「学内外助成金情報」を掲載しています。また、補助金の募集内容に近い研究をされている先生方にメールで情報を送る支援をしており、この支援は先生方から大変好評で、「申請しました」とのご報告も数多く寄せられました。
本学教職員で情報提供を希望される方は、教育・研究支援センターまでメールでご連絡ください。

学内助成金情報

全学対象から学部対象まで学内の補助金情報が一括で見ることができます。
掲載方法は、全学・学部ごとにわけ、締め切り日の昇順で掲載しています。

研究者向け
研究助成金情報

学外助成金情報

公的研究費情報	文部科学省および他府省（独立行政法人等を含む）から配分される競争的資金を中心とした公募型の研究資金「e-Rad で対象となる公募一覧」の情報を公開しています。
公益信託研究助成金情報	公益信託による奨学金・研究助成金等の募集情報を公開しています。
各種財団等の助成金情報	大学にて受信の助成金情報を日々更新して掲載しています。

研　究　支　援

研究支援コンサルテーションデスク

担当
URA 仁木 保 特任教授 理学博士

URAが研究に関する多様なご相談を、研究相談窓口（コンサルテーションデスク）よりサポートします。**科研費の申請に関する相談、公的・民間助成金などの情報発信や申請に関する相談**、企業との共同研究に関する事前の相談、研究成果の知財化などさまざまな相談に対応します。

また、研究成果などの外部への情報発信として、**論文後のプレスリリース支援**、個別面談を通じての**研究者情報の収集**および**研究者紹介リーフレット**の作成も進めています。

2023年度コンサルテーションデスク実績

コンサルテーションデスクは習志野キャンパスでも定期的に開設し、延べ85名（個別面談者：大森地区27名、習志野地区58名）の研究者との面談・個別相談を行いました。また、研究者紹介リーフレットは新たに医学部４名と理学部の４名が加わり、合計24名の情報をホームページに公開しました。研究者から好評を得ている「科研費申請書作成個別相談会」は、医学部研究推進室のURAと協力して開催し、合計51名の個別支援を行いました。また、経営企画部と連携した研究関連のプレスリリース原稿確認は20件行い、研究内容をより読者に伝わるように支援しました。

相談フォーム

対象学部　薬学部、理学部、看護学部、健康科学部
※ 医学部は研究推進室リサーチ・アドミニストレーション部門へご相談ください

利用方法　教育・研究支援センターホームページの教育・研究支援サイト内にあるコンサルテーションデスク相談フォームよりお申し込みください

科研費申請書個別相談会

研究支援のプロフェッショナルであるURAによる科研費個別相談会は、2021年度からスタートし３年目になりました。今年度は、４月に相談会の案内を行い５学部から合計51名の相談申し込みがありました。臨床の先生方からの相談件数も年々増え、科研費申請に対する熱意を感じました。また、昨年ご利用いただいた先生方から、うれしい報告もいただきました。今後も医学部と協力した企画を開催していきます。

研究情報発信支援

研究成果のプレスリリース作成・発信支援

研究成果を広く社会に発信していくことは、大学としての使命でもあり、研究者自身の研究成果のさらなる向上にもつながる有用な活動の一つであります。また、効果的なプレスリリースは、本学のプレゼンスを高めることにも貢献できると考えます。今年度は20件の作成・発信支援を行いました。研究成果に関するプレスリリースの作成・発信支援のご相談は、コンサルテーションデスクまでご連絡ください。

研究者紹介リーフレットの作成

本学の教員との個別面談を通じて、研究内容、研究情報を収集し、研究者の情報ツールとしてリーフレットを作成しています。今年度は新たに医学部４名と理学部４名が加わり合計24名となり、リーフレットに厚みが増してきました。今後は、学外の研究機関や企業に情報発信していく予定です。

論文適正化にむけて

近年、論文投稿の際に事前のチェックを求める科学雑誌が増えてきています。個人利用では利用金額の負担が大きいチェックツール（iThenticate）を、大学が契約することにより本学教員が自由に利用できるようにしています。2020年の導入以来、毎年の年間利用件数が伸びています。論文投稿の際の確認には、ぜひご利用ください。なお、利用にあたっては利用登録が必要ですので、ユーザー登録フォームより、事前に申請してください。
（詳しくは教育・研究支援センターホームページへ）

登録フォーム

対象学部　本学の常勤教員（助教以上）
※ 教育目的での利用はできません
※ 学部生・大学院生は利用できません

利用方法　ユーザー登録フォームより事前申請を行う
※ １回の申請で３か月の利用が可能です

研究支援セミナー

今年は、科研費の申請書作成に間に合うように、６月に申請書の書き方を丁寧に解説するセミナーを開催しました。また、昨年も好評を博したプレゼンデザイン講座をダイバーシティ推進センターと共催で開催しました。そして、教育関係者も関心が高い「生成系AI」とはどのようなものなのかについて、理学部情報科学科の豊田講師に解説していただきました。

科研費申請の最新動向 ～採択をつかむためのポイント解説～	「良きパートナー」としての 生成系 AI の利活用	はじめてのプレゼンデザイン講座
共　催：ダイバーシティ推進センター 開 催 日：2023年6月30日（金） 参 加 者：147名	共　催：学長・学部長会議 開 催 日：2023年10月4日（水） 参 加 者：242名	共　催：ダイバーシティ推進センター 開 催 日：2023年12月9日（土） 参 加 者：94名

研究支援セミナーの動画配信（研究オンライン講座）

これまでに開催した研究支援セミナーを中心に動画配信をしています。教育・研究支援センターのホームページから視聴が可能です。今年度開催された科研費申請の最新動向セミナーなどを掲載していますので、本学教職員ならだれでも、いつでも視聴できます。（学内専用）

研究オンライン講座

サイエンスカフェ

教育・研究支援センターでは、研究者交流促進企画を支援しています。昨年度から理学部のサイエンスカフェ委員会が主催する「サイエンスカフェ～ちょっと大人のオープンラボ～」では、ポスター作成や学内周知活動を行いました。今年度は４学科の開催を支援し、情報科学科（第３回）、生物分子科学科（第４回）、化学科（第５回）、最後は生命圏環境科学科（第６回）でした。理学部担当者からは、サイエンスカフェが学部を超えた教員同士の相互理解につながったと報告がありました。
教育・研究支援センターでは、今後も研究者の交流推進の企画を支援していきます。ご意見・ご要望がありましたらご連絡ください。

第３回 情報科学科

第４回 生物分子科学科

第５回 化学科

第６回 生命圏環境科学科

研究支援に関する自己点検・評価

評価

今年度は、以下のような実績をあげ、特に昨年度にスタートした新たな企画への参加者も増え、本学の研究支援に十分貢献できた。

実績

- URAによるコンサルテーションデスクは、96件の研究支援関連の相談があり、昨年度からの継続案件も増えている。科学研究費申請個別相談会は、４月に不採択になった申請書と審査結果をもとにブラッシュアップをする企画を開催し、理学部、薬学部、看護学部からの利用者は15件であった。
- ６月に科研費申請の最新動向、申請書作成支援、10月に生成系AIの利活用、12月のプレゼンデザイン講座とさまざまな角度から研究支援セミナーを企画し開催した。
- 研究者紹介リーフレットは、医学部４名、理学部４名の新たなリーフレットが完成し、合計24名分の資料をホームページに掲載できた。
- 論文発表された研究成果の広報活動であるプレスリリース原稿をURAが専門的な視点で原稿内容を確認し、20件配信できた。
- 研究論文の適正化を確認するための論文剽窃ソフトは、195論文に利用され昨年比 141%となり、研究論文の適正化貢献ができた。
- ノーベル賞解説セミナーは、103名の教職員から学部生・大学院生まで幅広い参加者があった。この取り組みは、動画配信を学外向けにも行い、本学の研究者のよいアピールの場となった。
- 研究者の交流促進の機会を目的にしたサイエンスカフェは、昨年から引き続き理学部６学科で開催し、合計133名の教職員の参加があった。

今後の課題

- 科研費申請支援のためのさらなる企画等を検討する。
- 研究オンライン講座の利用者が少ないため、周知活動・利用促進策を実施していく。
- 研究者紹介リーフレット作成を他の学部の研究者にも展開できるような取り組みを行う。
- サイエンスカフェの活動を他の学部へも展開することを検討する。

特集

研究オンライン講座

教育・研究支援センターでは、これまでに開催したセミナーや講座のうち動画配信可能なものを集めたサイト**「研究オンライン講座」**をホームページにご用意しています。本学の教職員であればいつでも視聴が可能です。（視聴の際には、Web認証のID・パスワードが必要です。）**研究支援セミナー**、**TUGRIP（東邦大学重点領域研究補助金）セミナー**、**社会連携セミナー**の３つのカテゴリーに、さまざまな動画を収蔵しています。ぜひご覧ください。また、研究支援に関するセミナーへの皆様のご意見・ご要望をお待ちしています。

研究支援セミナー

研究支援セミナーは、研究推進に必要なトピックで開催されたセミナーを集めています。臨床研究に必要な疫学・統計学、研究計画書の書き方を網羅した講義「臨床研究ベーシックセミナー」や、編集者の視点・査読者の視点で英語論文を書くコツを伝える「アクセプトされやすい英語論文のまとめ方」。統計ソフト「Tableau®」の活用方法や、科研費採択のためのポイントセミナーなど、幅広いテーマのセミナーをいつでもご覧になれます。

疫学・統計学

- 臨床研究ステップアップセミナー（2019年９月）
- 臨床研究ベーシックセミナー（2020年11月）

- 統計ソフト「Tableau®」活用セミナー（2023年３月）

英語

- アクセプトされやすい英語論文のまとめ方（2021年７月）
- 英語プレゼンテーションセミナー（2022年５月）

申請書作成

- 科研費採択をつかむためのポイント解説セミナー（2023年６月）

その他

- 令和４年度第１回 ABS セミナー（2023年３月）
- 2022年ノーベル賞解説セミナー（2022年12月）

- 2023年ノーベル賞解説セミナー（2023年12月）

TUGRIP（東邦大学重点領域研究補助金）セミナー

TUGRIPの採択グループは、毎年本学教職員に向けた各種セミナーを開催しています。研究グループメンバーがTUGRIPのテーマに沿って研究紹介をするセミナー、そして研究機器の使い方を紹介するテクニカルセミナーなどにわけて開催されています。また、令和２年度のグループの最終報告会も掲載しています。

令和２年度採択事業（研究代表者：医学部　教授 中野 裕康）

- TUGRIP セミナー
  - 重症感染病態におけるマクロファージ・単球制御による治療戦略

- 大型研究機器テクニカルセミナー
  - Flow cytometry
  - ハイコンテント・イメージングシステム
  - 共焦点レーザー顕微鏡／DeltaVision 顕微鏡
  - 遺伝子発現解析装置／sc-RNA seq 解析について

- 最終成果報告会
  - 2020-2022 全体報告
  - 細胞死に伴い放出された因子の４次元リモデリングにおける役割
  - 非結核性抗酸菌症における持続感染のメカニズムの解明
  - SATB1 遺伝子欠損により発症する自己免疫疾患の解析

令和４年度採択事業（研究代表者：理学部　准教授 村本 哲哉）

- TUGRIP セミナー
  - 細胞を生きたまま観察するライブイメージング
  - 第２回放線菌の遺伝子組換えと抗生物質生産への応用

令和５年度採択事業（研究代表者：医学部　教授 船戸 弘正）

- TUGRIP セミナー
  - 筋萎縮性側索硬化症（ALS）克服へのロードマップ
  - レム睡眠のメカニズムの意義
- テクニカルセミナー
  - ニューロンモデルと神経回路ネットワークのシミュレーション

社会連携セミナー

社会連携セミナーは、学外とつながりがある活動をまとめたものです。現在は、2021年から本学も参画している「カーボン・ニュートラル」への取り組みについて、理解を深めるために開催したセミナーを掲載しています。

- 第１回「東邦大学はカーボン・ニュートラルとどう向き合うか」（2022年３月）
  - カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学とその評価
  - カーボン・ニュートラルに対する他大学の取り組み

- 第２回「東邦大学はカーボン・ニュートラルとどう向き合うか」（2023年３月）
  - 千葉県におけるカーボン・ニュートラル戦略
  - 東邦大学における光熱費の現状、省エネの取り組み
  - 千葉商科大学における省エネ、創エネの取り組み

- 第３回「東邦大学は地球温暖化とどう向き合うか」（2024年２月）
  - 地球温暖化の現状と見通し
  - 地球温暖化と感染症

2023 ノーベル賞 解説セミナー

昨年度初めて開催した《ノーベル賞解説セミナー》は、学内外の方から大変好評な企画となりました。そこで、今年度も2023年ノーベル賞解説セミナーを12月13日に開催しました。ニュースで目にする受賞内容の解説を聞くことで、私たちの生活に科学が貢献しているのかを知ることができます。今年の３賞の解説は、生理学・医学賞を医学部 桑原准教授、化学賞を理学部 来原准教授、物理学賞を理学部 中嶋講師にご担当いただきました。オンデマンド配信もありますので、ぜひご視聴いただき科学を身近に感じてください。なお、本配信は本学教職員だけでなく、連携している自治体や関係団体の方にも視聴していただけるようご案内をしています。

ノーベル生理学・医学賞の研究のみどころ

医学部 免疫学講座 准教授　**桑原 卓**

今回の生理学・医学賞は、COVID-19を連想することからとてもインパクトがあったと思います。ところが、「メッセンジャーRNAからタンパク質ができる」というあまりに当たり前すぎて、周囲から科学的価値を理解されないところからのスタートでした。カリコ博士とワイスマン博士は当たり前に磨きをかけ、いくつもの課題をクリアしました。コピー機前での出会いが20年後の大逆転に至った経緯をご紹介します。

ノーベル物理学賞の研究のみどころ

理学部 物理学科 講師　**中嶋 善晶**

物質を構成する最小単位は原子で、原子を構成するのが原子核と電子です。その電子は 10^{-18} s、すなわちアト秒オーダーで動いており、大きさは 10^{-10} m（1 nmよりもさらに1桁小さい！）に相当し、従来手法では電子の動きを正確に見ることはできません。そこで超高速なシャッターとして登場したのが「アト秒光パルス」です。本セミナーでは、高次高調波の発生からアト秒パルスの測定、およびアト秒レーザーの応用先まで紹介します。

ノーベル化学賞の研究のみどころ

理学部 化学科 准教授　**来原 彰太**

物質をナノメートルサイズまで小さくすると、そこには量子力学の世界が広がり、目に見える大きさの物質とは異なる性質が発現します。今年のノーベル化学賞の受賞理由である“量子ドット”は、そのような量子力学に基づいた物性が発現する代表的な物質です。量子ドットのもつ発光特性を中心にその魅力を伝えつつ、受賞者の業績を紹介します。

オンデマンド配信中

ぜひオンライン講座をご覧ください

仁木 保 特任教授 からのコメント

昨年度に引き続きまして、ノーベル賞解説セミナーを開催いたしました。今回も、ノーベル賞自然科学系の３賞におきまして、解説いただける研究者がおられ、わかりやすい解説をいただけたことは、本学の基礎研究力のポテンシャルを改めて知ることができたと思います。100名を超える参加者があり、多くの教職員、学生より興味をもっていただいたことからも、本セミナー企画は、ぜひ毎年継続していきたいと考えています。

社　会　連　携　推　進　活　動

● 地域連携に関する基本方針･計画（令和５年度～7 年度）

本学は令和２年に地域連携に関する基本方針ならびに3年間の実行計画を策定しました。令和４年度には３年間の活動を振り返り令和５年度から令和7年度の計画を立案しました。新たな計画にはさらに具体的で発展的な活動にするために「地域交流」を加え、12項目に活動指標と３項目にアウトカム指標を設けました。

基本方針

東邦大学は「自然・生命・人間」の建学の精神に則り、多様な学術分野の教育・研究と医療で地域社会に貢献するために、地方自治体等と協働して連携活動を推進する。

基本方針に基づく取組と目標

体制整備
大学と地方自治体、産業界が協働して、地域連携活動を推進するための体制整備をする。

生涯教育
地域住民の生涯に渡る学びに寄与する教育プログラムを開発、実施する。

人材育成
地域で活躍する専門職が地域課題を解決できる能力を育成するプログラムを開発、実施する。

共同研究
地域課題解決を目指して、地方自治体や企業と連携し、共同研究を推進する。

地域交流
地域と交流できる機会や環境を整え、地域社会と大学との連携を強化する。

活動評価
更なる活動の発展に繋ぐために定期的に評価を行い、見直しを行う。

実行計画

体制整備

目 標	**本学が連携協定締結する地方自治体と地域連携活動を推進するための体制整備をする。**	
計画概要	**地方自治体と定期的に意見交換会を実施する。**	活動指標①（各自治体：年１回以上）
	本学の教職員・学生の地域連携活動現状を把握し、ホームページ等で公開する。	活動指標②（年１回以上）
	地域連携のニーズをキャッチし、学内協力者をつなぎ社会貢献活動を推進する。	活動指標③（協力者の推薦件数：年１名以上）

生涯教育

目 標	**地域住民の生涯に渡る学びに寄与する教育プログラムを開発、実施する。**	
計画概要	**社会人向け講座の開催数を増やし、参加人数を増加させる。**	活動指標④（令和４年度：53 回開催 → 令和７年度：10%アップ）
	地方自治体や地元産業界等からのニーズに対応すべく、講師を派遣する。	活動指標⑤（令和４年度：41 件 → 令和７年度：10%アップ）

人材育成

目 標	**地域で活躍する専門職が地域課題を解決できる能力を育成するプログラムを開発、実施する。**	
計画概要	**地方自治体又は地元産業界等から意見を聴取したうえで「履修証明プログラム」を開講し、社会人受講者へ発行する履修証明書を増加させる。**	アウトカム指標①（満足度：80%以上）
	自治体や産業界と連携した社会人対象の人材育成講座等を実施する。	アウトカム指標②（満足度：80%以上）
	地域の就業者向けプログラムを実施する。	アウトカム指標③（満足度：80%以上）

共同研究

目 標	**地域課題解決を目指して、地方自治体や企業と連携した共同研究を推進する。**	
計画概要	**共同研究に向けた地域課題抽出のための意見交換を実施する。**	活動指標⑥（年５回以上）
	地方自治体や企業と連携した共同研究を実施する。	活動指標⑦（年２件以上）
	共同研究成果を社会に発信する。	活動指標⑧（年４件以上）

地域交流

目 標	**地域と交流できる機会や環境を整え、地域社会と大学との連携を強化する。**	
計画概要	**大学施設利用の推進。**	
	学生が地域イベントに参加できる機会を増やす。	活動指標⑨（年３件以上）
	地域住民が大学の活動に参加できる機会を増やす。	活動指標⑩（年５件以上）

活動評価

目 標	**更なる活動の発展に繋ぐために定期的に評価を行い、見直しを行う。**	
計画概要	**本学の地域連携に関する基本方針および実行計画について自己評価を行う。**	活動指標⑪（年１回）
	本学の地域連携に関する基本方針および実行計画について外部評価を受ける。	活動指標⑫（年１回）

● 地域連携・大学間連携の推進

地域連携

本学は、2013年より大森キャンパスと習志野キャンパス、そして医療センター３病院などが立地する自治体と連携して、地域を志向した教育・研究・社会貢献を推進するために包括協定を締結し活動をしています。

包括協定を締結している自治体（締結日）

大田区（東京都）	2013年４月４日	習志野市（千葉県）	2014年３月27日	佐倉市（千葉県）	2014年３月27日
目黒区（東京都）	2014年３月31日	船橋市（千葉県）	2014年４月９日	世田谷区（東京都）	2016年１月28日

大学間連携

本学は、2010年に千葉大学、2017年に静岡大学、そして2020年に東京工業大学と包括協定を締結しており、大学間連携によるお互いの強みを活かした教育・研究・社会貢献を推進しています。昨年に引き続き、千葉県下の大学が連携する「千葉エリア産官学公金共創イノベーションネットワーク」に参画しています。東京工業大学とは、大学院生の実習受け入れに関する対応の支援を行いました。また、静岡大学と情報交換を行い、大橋病院の臨床の先生とのマッチング支援をしました。

社　会　連　携　推　進　活　動

リカレント教育

人は生涯を通じて学び続けることが、予測のつかない現代に生きるためのすべであり、大学は人々の学びの場を提供することが社会的使命であるといわれています。本学も、この度大学全体としてのリカレント教育についての方針と中長期計画を策定しました。これは、５学部３病院で行われてきた公開講座や各種セミナーを企画・開催する軸となるものです。これからも小中学生から社会人の方、地域の方から専門職の方まで幅広い皆様が、学び続ける場、そして機会を提供していきます。

リカレント教育に関する中期事業計画

１．東邦大学におけるリカレント教育推進方針

少子高齢化、高度情報化、技術化、国際化など社会の急激な変化によって生ずる諸問題に対して主体的に考え行動していくため、社会は生涯を通じて高度な教養と技術を学習する機会を求めている。このような要請にこたえるべく、東邦大学は、自然科学系総合大学としての教育・研究活動の成果を、地域社会、市民、専門職業人に提供することにより、生涯にわたって人が学び続け、時代への主体的対応を行っていくことを支援する。また、これらの取組は、大学による社会貢献活動であるとともに、大学にとって、多様な社会人との接点を通じた教育・研究活動の向上、自治体・産業界等との協力・連携の強化に資する貴重な機会となる。

以上から、社会の要請および社会人の学ぶ意欲に的確に応えるため、適時に社会のニーズを把握し、各種施策の強化・拡充を図るとともに、情報へのアクセスが容易となるよう、広く公表・周知し、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する多様なリカレント教育等の社会人学び直しに関する取組を推進していく。

２．事業期間

2023 年度～ 2025 年度

３．事業計画

実　施

自然科学系総合大学としての教育・研究活動で得られた知見に基づき、それを広く社会に還元するため、社会人学び直しに関する以下の取組を行う。

①アップスキリングに関する施策
修士課程、博士課程、長期履修制度、科目等履修制度、その他専門職対象とした認定講習等を通して、本学が養成課程を擁する各種専門職分野において、さらなる知識・技能や、時代のニーズに則して新たに求められる能力・スキルを身に着けるためのプログラムを実施する。

②リスキリングに関する施策
履修証明プログラム等を活用し、自治体等の社会のニーズを踏まえた社会人教育プログラムを実施する。

③職業に結びつかない技術・教養の獲得を支援する施策
広く一般を対象とした社会貢献として公開講座等を通じて、職業に直接結びつかない技術・教養を獲得するための場を提供する。

企画・評価・改善

毎年度のプログラムの企画にあたっては、自治体・関連団体等のニーズおよび過年度受講生からのフィードバックの把握に努めるとともに、それらに基づく検討を行う。

評価指標および目標値

- 社会人への学位授与数（大学院）：120 名以上（2023 ～ 2025 年度累計）
- 履修証明プログラム履修者数：10 名以上（2023 ～ 2025 年度累計）
- 公開講座の開講数：40 回以上／年（2025 年度時点）
- ニーズ把握のための自治体等への意見聴取：1 回以上／年（2023 ～ 2025 年度）

東邦大学のリカレント教育一覧

本学には、５学部３病院でさまざまなリカレント教育のプログラムが開催されています。どなたでも参加可能な講座から専門職のための講座、そして大学院の科目履修生や聴講生制度まで幅広く開講しています。開催に関する情報は、各学部・病院等のホームページをご確認ください。

どなたでも学べる講座

医学を学ぶ、医療を学ぶ
医学部 公開講座
大森病院 公開講座
大橋病院 公開講座
佐倉病院 公開講座

薬学を学ぶ
薬学部 公開講座
薬草園一般公開

理学を学ぶ
理学部 公開講座

看護を学ぶ
看護学部 公開講座
・地域連携教育支援センター
・地域共創実践研究センター
健康科学部 公開講座

専門職が学べる講座

高等学校教員
高等学校教員対象サイエンス教室

薬剤師
薬剤師生涯学習認定制度

看護師
看護師特定行為研修

行政職員
履修証明プログラム
（地域における感染症エキスパート人材育成プログラム）

大学院で学ぶ

大学院看護学研究科
科目履修生／聴講生

どこでも学べる講座

教育・研究支援センター
研究オンライン講座（公開講座）
官学連携人材育成講座　動画配信

生涯学び続ける楽しさの基盤をつくるのは、小中高生の時代です。次世代が学ぶことの楽しさや豊かさを経験できる講座も開講しています。開催情報は、各学部のホームページをご確認ください。

次世代が学ぶ講座

医学部・看護学部
小学生夏の医学校
（小学６年生対象）

医学部
中学生未来の医学
“夢”スクール
（中学生対象）

薬学部
夏休み薬学教室
（中高生対象）

理学部
ふなっこ未来大学
（船橋市小学生対象）
理学部出張講義
（高校生対象）
令和５・６年度 JST
女子中高生理系進路選択
支援プログラム採択事業

社会連携推進活動

大田区との地域連携の推進

大田区との定例会議

大田区とは包括協定や個別協定をもとに定期的な会議を開催しています。新型コロナウイルス感染症に関する個別協定からスタートしたコア会議は、大田区の区長・副区長をはじめとする関係部署の幹部が参加するもので、年１～２回開催され情報共有や課題解決に向けた方針などを協議します。この他に、公民連携の担当者同士が具体的な運用について協議する担当者会議を毎月開催しています。

官学連携人材育成講座

大田区との連携でスタートした官学連携人材育成講座は、今年４年目を迎えます。講座のテーマは毎年両者で話し合い、ニーズに沿ったものを選んでいます。今年度は、働く人のこころのケア、防災に備えることをテーマに合計４回開催しました。大田区職員、大田区産業振興協会、関連企業、大田区特別出張所と近隣住民の方にご参加いただきました。

2023年９月	●避難所において注意しなければいけない感染対策
2023年９月	●メンタル不調とそのセルフチェック ●産業保健と仕事復帰について
2024年２月	●避難所において注意しなければいけない救護対応
2024年３月	●ストレス対処法とラインケア ●職場におけるストレスマネジメント

履修証明プログラム

2021年からスタートした履修証明プログラムは、医学部と大田区の連携のもと開講されました。「地域における感染症対策エキスパート人材育成プログラム」は、これまでに12名の修了生を輩出し大田区役所のさまざまな部署で活躍しています。感染症の基礎から専門的知識までを講義30時間、演習30時間で学びを深めます。大学で答えのない問いに向き合うこと、学び進めることを経験することは、生涯学習のマインドも醸成するようです。

寄付講座

2020年の新型コロナウイルス感染症拡大の際に、本学と大田区は両者が協力して対応していくための「東邦大学と大田区との新型コロナウイルス感染症リスク対策に関する協定書」を締結し、同年11月には医学部に大田区の寄付講座となる「地域連携感染制御学講座」の開設となりました。2023年は、５月に新型コロナウイルス感染症が５類に変更され、世の中の活動が元通りになるにあたり区の感染対策の見直しへの助言を行い、９月には避難所において注意すべき感染対策について特別出張所職員が学ぶセミナーを開催しました。

本講座は、今後も社会の変化や新たなニーズに柔軟に対応しながら活動できるように発展していく予定です。

基本構想「ヒアリング／アンケート」

大田区の新たな目指すべき将来像を描く「大田区基本構想策定」に向けたヒアリングに、本学の医学部・看護学部の学生７名が参加しました。学生たちは、自分たちが感じている大田区のこと、将来に向けた要望など、等身大の意見を次々に述べていました。また、７月から９月に開催された「新たな大田区基本構想に向けたアンケート」にも、医学部・看護学部の学生が参加しました。行政の計画立案に学生時代から関われる機会は、学生たちにとってもとても関心の高いことのようでした。

共同研究

本学は、大田区との個別協定に基づき、「人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト」として大田区との共同研究を行っています。医学部社会医学講座の西脇教授、朝倉教授を中心としたメンバーが、大田区の健康に関連するさまざまな情報を18特別出張所地区ごとに分析しています。大田区18地域がもつ、健康課題や地域特性を把握し、科学的根拠に基づく健康づくり施策の立案に資する知見を得ることを目的としています。令和５年11月22日には、大田区役所で区の職員に向けた講習会が開催されました。講習会では、今年度の研究成果について西脇教授、今村客員講師、朝倉教授が昨年からさらに進んだ研究成果について発表し、地域ごとの利点や今後の課題について解説をしました。会場には、幅広い部署からの参加者があり、データで示された大田区の現状について興味深く聞き入っておられました。

西脇教授

今村客員講師

朝倉教授

大森第三小学校の研究活動支援

昨年度より、大森第三小学校が研究推進校として健康教育に取り組まれており、本学にも専門的助言の要請がありました。そこで、医学部社会医学講座の西脇教授、朝倉教授が小学校の先生方とのミーティングで研究活動について助言し、さらに昨年度は研究活動に参加する小学校教諭に向けて「健康教育とは何か？」のレクチャーを行いました。今年度は活動の最終報告会に参加し２年間の研究成果に講評を行い、「人生100年時代の健康教育」について講演も行いました。

大田区ナナハト学校でポスター展示

令和５年８月19日（土）・20日（日）に、イトーヨーカドー大森店で開催された「大田区ナナハト学校」に本学もポスター展示で参加しました。ポスターは、「こどもと食育」をテーマにした「小学生で取りすぎ／足りない栄養素はなんでしょう？」と「代替肉って何がよいの？」を掲示しました。当日は、夏休みの週末で多くの親子連れの方が、ポスターの前に足を止めていました。

令和６年２月17 日（土）・18 日（日）には「こどもと健康」をテーマに開催され、メンタルヘルスを紹介する「こころのモヤモヤってなんだろう？」のポスターを掲示しました。また、医学部・看護学部が主催で開催する「小学生夏の医学校」の紹介もしました。

習志野市・船橋市・目黒区との連携

習志野市

習志野市長との意見交換会

令和５年９月27日、習志野市役所を訪問し習志野市長と意見交換会を開催しました。本学からは高松学長、古田副学長、西脇センター長、仁木社会連携推進室長が参加し、地域での取り組みや大学との連携について活発な意見交換を行い、リカレント教育につながる示唆もいただきました。

船橋市

船橋市との個別定例会議

令和５年５月30日、船橋市政策企画課と本学の個別定例会議がオンラインで開催されました。これまでの連携活動を再確認し、今後の双方の連携事業について意見交換を行いました。

目黒区

目黒区公民連携プラットフォーム

目黒区がさまざまな業種や分野の連携機関と交流を深める場として設置した「目黒区公民連携プラットフォーム」に本学も会員として参加しています。

また、会員同士の交流促進を目的に12月と２月に開催されたセッションでは、本学も参加しさまざまな分野の方と意見交換を行いました。

社　会　連　携　推　進　活　動

大学間連携の推進

東京工業大学

実践型アントレプレナー人材育成プログラム（PEECs）への協力

実践的な課題型学習および実習・演習を通じて、価値創造と社会変革を導ける人材養成を目指す、東京工業大学実践型アントレプレナー人材育成プログラム（PEECs）に本学の医療センター大森病院も協力しています。理工系大学院生が医療の現場を実習の場として見学することで、臨床現場の課題に直接触れ、医療者と語り、ユーザー視点での課題解決を目的にしたプロダクトやサービスの発明を目指します。2018年にスタートした本プログラムは、６年目を迎えました。コロナ禍で中止されていた臨床現場での実習も、今年から再開され、学生たちがより具体的に考える機会を提供しています。

東京工業大学のプログラム受講生、担当教員のインタビュー動画は、こちらから視聴できます。

インタビュー動画

静岡大学

静岡大学工学部研究者とのマッチング

本学は、包括協定締結校の静岡大学との研究者交流やマッチングを支援しています。令和５年12月12日には、静岡大学工学部の教員と大学院生、産学連携本部担当者が医療センター大橋病院に来校し、研究開発に関する技術紹介ならびに意見交換を行いました。本学からは、大橋病院 腎臓内科の常喜教授、教育・研究支援センターから仁木社会連携推進室長が参加しました。

改革総合支援事業（地域社会の発展への貢献）選定

令和５年度文部科学省私立大学等改革総合支援事業　タイプ３（地域社会の発展への貢献）選定

本学は、令和５年度文部科学省私立大学等改革総合支援事業タイプ３（地域社会の発展への貢献）に選定されました。今年度のタイプ３の選定率は25%で、タイプ１（21%）に次ぐ狭き門でした。これで、本学は令和２年度から４年連続で選定となりました。

改革総合支援事業とは、私立大学等における特色のある教育研究の推進や産業会・他大学との連携、地域との連携において、改革を全学的・組織的に取り組む大学等を支援するものです。取り組みは、タイプ１「特色のある教育の展開」、タイプ２「特色ある高度な研究の展開」、タイプ３「地域社会の発展への貢献」、タイプ４「社会実装の推進」の４つにわけられ活動状況を事前の質問項目により得点化され、毎年基準点を超える大学を選定し、選定校にはタイプ別に特別補助交付金の交付があります。（タイプ３は1,000万円程度）この他に選定校には、経常費補助金の交付金額の増額などの対応があります。地域連携活動の推進は国の方針でもあり、活動が認められる大学には手厚い補助が行われます。

出典：文部科学省　私立大学等改革総合支援事業

地域住民への報告会

大学の地域連携活動の推進には、地域の方や地域で働く方に本学の活動を知っていただき、要望を伺う機会をもつことが重要です。本学も、2020年に策定した地域連携に関する基本方針に基づく、３年間の活動や新たな方針・計画概要を地域の方に報告する「東邦大学地域連携に関する成果報告会」を開催しました。

当日は、大田区住民を代表して３名、大田区職員３名の方にご参加いただきました。まず始めに、西脇センター長から本学の地域連携活動の報告を行い、続いて意見交換を行いました。参加者からは、本学の地域連携活動に期待すること、これまでの活動で評価が高いこと、リカレント教育に期待すること、新たな連携活動に関する提案など、多岐にわたるご意見をいただきました。

開催日	2023年９月22日（金）	報告内容	①東邦大学地域連携に関する基本方針・計画 ②地域連携の推進 ③大学間連携の推進
開催場所	東邦大学医学部１号館第２会議室		
参加者	大田区民 ３名／大田区職員 ３名／東邦大学９名		

東邦大学地域連携に関する基本方針・計画概要

センター長による成果報告

地域連携活動に関する意見交換

研究支援に関する自己点検・評価

評価

今年度は、以下のような実績をあげ、自治体との連携や大学間連携がコロナ禍前の状況に近い活動となり、本学の社会連携推進活動に十分に貢献できた。

実績

- 地方自治体との意見交換会を大田区12回（うち、コア会議１回）、目黒区１回、船橋市１回、習志野市１回開催した。（活動指標①）
- 教職員・学生の活動の把握とホームページ掲載は、令和５年度は５回実施した。（活動指標②）
- 大田区からの依頼を受け、区の委員会に２名推薦した。（活動指標③）
- 大田区と連携して開催している官学連携人材育成講座を４回開催した。
- ９月には、地域住民や行政職員を対象にした地域連携活動の報告会を開催し、本学の活動に関して意見交換ができた。（活動指標⑫）
- 大田区の寄付講座「地域連携感染制御学講座」、履修証明プログラムの運営を支援した。
- 大学間交流では、静岡大学産学連携推進機構と意見交換のミーティングが再開でき、研究者間の交流につながる活動に発展できた。
- 社会連携に関する取り組みは、令和５年度文部科学省改革総合支援事業タイプ３（地域社会の発展への貢献）に選定され、さらに経常費補助金の加算につながった。

今後の課題

- 包括協定を締結しているが、活動を再開していない自治体および大学との交流をもつ。
- 包括協定を締結していない、他の自治体、大学との連携を模索する。
- 人材育成のための各種セミナーや講座の開催時に、アウトカム指標について評価する。
- 新たな寄付講座の設置、ならびに新たなリカレント教育プログラム等を検討する。

2024年度活動計画

全学的な研究支援活動

- 全学的な教育研究支援活動の推進（セミナー、ワークショップの企画・運営、アーカイブ配信）
- URAによる研究支援強化（コンサルテーションデスク継続実施、研究者紹介、プレスリリース支援）
- 論文適正化支援（論文剽窃検索ソフトの学内管理、利用啓発）
- 助成金情報の収集と発信、運用方法の見直し
- センター活動報告書の作成

学内大型補助金 TUGRIP の管理・運営

- TUGRIP 採択事業 FD・SD の開催支援
- 令和７年度運営業務全般

外部資金の獲得と採択後の管理・運営支援

- 国の公的資金の情報収集と申請にむけた支援
- 採択後の事業管理・運営支援

さらなる大学の発展に向けた新たな取り組みの支援

- カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリションの支援
- 今後大学に求められる新規案件への対応

社会・地域連携活動の推進

- 包括協定締結自治体との連携活動の継続実施
- 大学間連携活動の推進
- 新たな連携の模索

教育・研究支援センター

センター長
西脇 祐司
医学部 社会医学講座衛生学分野 教授

副センター長
船戸 弘正
医学部 解剖学講座微細形態学分野 教授

副センター長
福島 健
薬学部 薬品分析学教室 教授

副センター長
尾関 博之
理学部 生命圏環境科学科 教授

副センター長
藤原 和美
看護学部 在宅看護学研究室 教授

副センター長
小板橋 恵美子
健康科学部 コミュニティヘルス領域 教授

社会連携推進室長／特任教授
仁木 保

特任准教授　広田 幸子

事 務 職 員　佐藤 百代／内山 智美

2023年度 報告書　東邦大学 教育・研究支援センター

2024年3月　発行

編集・発行　東邦大学 教育・研究支援センター

〒143-8540 東京都大田区大森西 5-21-16
TEL 03-3762-4151（内線 2481）
E-mail　edu-support@jim.toho-u.ac.jp
https://www.lab.toho-u.ac.jp/univ/edu-support/

東邦大学　www.toho-u.ac.jp

デザイン：まゆみデザイン